

会 議 録	
会 議 名	第2回真庭市子ども・子育て会議
日 時	令和6年3月21日（木）19：00～20：45
場 所	真庭市役所 本庁舎 3階会議室
出 席 者	<p><出席委員> 11名 池田委員、小畑委員、川崎委員、庄司委員、杉本委員、谷口委員、苦田委員、額田委員、樋口委員、平田委員、二若委員</p> <p><欠席委員> 4名 古谷委員、清水委員、長綱委員、西山委員</p> <p><事務局> 3名 健康福祉部子育て支援課 行田課長 健康福祉部子育て支援課 広岡専門官 健康福祉部子育て支援課 硯課長補佐</p>
傍 聴 者 数	<傍聴者> 2名
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 会長挨拶 3 議 題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 特定教育・保育施設の利用定員（案）について 4 報 告 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「こどもはぐくみ応援プロジェクト2024」について (2) こども家庭センターについて (3) 真庭市幼児教育・保育施設マネジメント基本方針について (4) 放課後児童クラブの状況について (5) 地域子育て支援拠点事業の状況について 5 その他 6 閉 会

1 開 会

(事務局 行田課長)

定刻となりましたので、ただいまから、令和5年度第2回真庭市子ども・子育て会議を開催いたします。

開会にあたり、小畑会長よりご挨拶をよろしく願いいたします。

2 挨拶

(小畑会長)

皆様、本当にお疲れ様です。今日は雪がある中、本当にありがとうございます。今日、2回目ということで、随分久しぶりですかね。前回皆様のご意見を十分頂戴できなかったというのが心残りになっておりました。今日、皆さんでも議論をしてほしいというオファーをいただいておりますので、皆様、それぞれ、色々なご意見を頂戴できたらありがたいと思っております。今日は、よろしく願いいたします。

(事務局 行田課長)

本日は、委員の皆様15名中4名が欠席ですが、過半数に達しておりますので、条例の規定によりまして会議が成立しておりますことをご報告させていただきます。それでは、以降の進行につきましては、規定に基づきまして小畑会長の方でよろしく願いします。

3 議 題

(1) 特定教育・保育施設の利用定員（案）について

(小畑会長)

それでは、議題の特定教育保育施設の利用定員案について、資料1の説明をよろしく願いいたします。

(事務局 硯課長補佐)

タブレット3ページ資料1になります。今回、久世地域の園の利用定員を令和6年度から変更することについて、認定こども園、幼稚園、保育園といった特定教育保育施設の利用定員の設定にあたっては、あらかじめ子ども・子育て会議の意見を聞かなければならないとされております。

利用定員とは、事業者が施設型給付の対象となる園児数に応じた運用費を市から財政支援として受ける際に、その対象として確認を受ける必要があるもので、その設定については、市が行うことになっております。

利用定員の設定にあたっては、認可定員の範囲内で設定することが必要で、認可定員を超えて設定することはできないことになっております。認可定員とは、運営する事業者が施設の認可、認定を受ける際に、その設備とか運営の基準を満たす定員であり、これは県が認可、認定を行うことになっております。今回は、市が設定することができる利用定員を変更することについてご意見をいただきたいと思っております。

具体的には、3ページの1番下の表で、久世こども園の1号認定の人数60名を28名に、それから草加部幼稚園の1号認定の30名を20名に変更する案です。

草加部幼稚園については、令和6年度の入園者が無しのため、令和6年度については休園することを決定しましたので、この場でご報告をさせていただきます。

5ページの表は、0歳児から5歳児の地区別の人口でございます。どの地区も減少傾向にあります。また、下の表ですが、これは久世地区だけを抜粋したもので、利用者については、平成30年度から令和4年度にかけてあまり変更がない状況が読み取れます。そうした中で、久世こども園幼稚園部については、定員を大きく下回っております。現状により近い利用定員数に変更しても全体としては差し支えないということから、今回の案を提案させていただきました。

このことを一覧にしたのが4ページの表になります。5年度に対して6年度ですが、この4月から開園の私立の認定こども園、星のこども園を含めた久世地域全体の利用定員数では、令和5年度と同じく合計460名ということで、全体の人数、利用定員としては、変更はございません。

(小畑会長)

草加部幼稚園は休園ですかね。

(事務局 硯課長補佐)

はい、そうです。

(小畑会長)

このことにつきまして、何かご意見がございましたら、ぜひ遠慮なくご発言をお願いしたいと思います。

(苦田委員)

草加部幼稚園が休園ということですが、令和4年の7名の利用者数が今年度は全然ないということですか。

(事務局 行田課長)

園児数の推移は令和5年度が記載できていないですが、2名でした。令和6年度については、入園案内をさせていただき入園者が無しという結果になっていますので、休園という取り扱いをさせていただきたいと思っております。

(苦田委員)

今年度はということですね。また来年以降はあるということですね。

(事務局 行田課長)

今年の0人という状況だけで判断は難しいと思っておりますので、7年度のご案内をさせていただいた上で、状況を勘案してということになるかなと思っております。

(苦田委員)

人数が0人だから休園はわかるんですけども、多くがお母様、お父様が送り迎えしていると思うんです。となれば、違うこども園や保育園に行っていただくということもどうなのかなと。先ほど0人と言われたので、おいおいに考えていかれる必要があるのではないかなと思います。地域に属して園があるというのは大事なことだとは思いますが、数名に対して職員も一定数いると思うんですね。送迎が必要であるならば、そういうことも視野に入れるべきではないかなと思います。

(川崎委員)

少子化ということに加えて、幼稚園の利用者も定員数を少なくすることによって、人員不足のことも少しは解消できるかもしれないですね。

(小畑会長)

真庭市は特に保育士不足が課題ということですので、それに対しても、メリットということですけども、解決ではないですが、側面はあるのかなと思います。それでは、この案につきましては、以上のご意見で終わらせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

～ 各委員意見無し ～

4 報 告

(1) こどもはぐくみ応援プロジェクトについて

(小畑会長)

それでは、次の4の報告、意見交換に移りたいと思います。こどもはぐくみ
応援プロジェクト2024について、事務局からよろしくお願いいたします。

(事務局 広岡専門官)

～資料説明【資料2】～

(小畑会長)

盛りだくさんのこの取り組みについて、ご意見、ご感想を自由に言っていた
だくことが今後の施策の参考にもなるかと思っておりますので、是非、ご発言を願
いできたらありがたいと思います。前年比1.43倍で、かなり思い切った予算
を組まれたなと思っておりますし、継続事業に関してもたくさんあります。ご意見い
かがでしょうか。

(池田委員)

64事業から増やして、しかも予算が1.43倍ですごいなと思えました。継
続、新規とかあるんですけど、廃止された事業がありますか。

(事務局 広岡専門官)

いくつかあります。例えば、資料4の真庭市幼児教育保育施設のマネジメ
ント基本方針は、昨年度のプロジェクトには入っておりましたが、方針策定
のための予算でしたので、6年度には上がっていません。その他、教育委員会の
事業で統合された事業もあります。

(杉本副会長)

11ページの新しい事業で、やさしい社会の実現のためにこどもまんなかイ
ベントの開催があるんですけど、こどもはぐくみ応援事業の中にいろいろな
組織の人を入れてというような計画があるんですか。それとも市役所の職員
だけで実施していくのですか。

(事務局 広岡専門官)

こどもはぐくみ応援事業で、2月12日に勝山文化センターでこどもまんな
かまつりを開催しました。こちらは、保護者の方も家族の方もみんなが参加し
てこどもを中心に楽しめるようなイベントを企画したのですが、皆さんから
楽しかったというようなお言葉をいただいております。来年度も引き続き、実
施したいと思っています。市の職員だけではなく、委託で業者さんにしていた
だく部分もあるんですけども、令和6年度は、情報発信について、子育て世
代だったり市民の方にもインフルエンサーとしてご参加いただいて、口コミで
もターゲットに対して情報発信する予算を上げております。

(杉本副会長)

愛育委員の会員は、本当に皆さんと一緒に子どもを育てていかないといけないと思っていますので、何か役に立てることがありましたら言っていただければと思います。コロナのいろいろな関係もあったりして、出生数が令和5年は194人です。以前は、合計特殊出生率が全国でも真庭市は上の方だったのですが、どうやって子どもさんを増やしていくかっていうのは、真庭にとっても大きな課題かなと思っています。美甘小学校は6年度の入学がいらないです。始まって以来で、地域が過疎化で本当に寂しい。なかなか結婚しない時代でもありますし、この中に新婚事業があることはいいなと思っています。

(樋口委員)

総合計画の中で2040年の総人口34,000人という目標を立てていますが、コロナ禍の中で実際出生も減っています。来年度、市を挙げて第3次総合計画を策定することになっているので、こういう会議の場でも議論させていただいて、どういうことができるかということだと思います。今回の議会の中でもお話が出ていましたが、やはりお母さんになられる世代の方々の人口にも焦点を当てながら、どういう策を打っていくかを考えていかなければいけないと思っています。

(苦田委員)

空き家対策、新婚さんバックアップ事業すごくいいこと書いてあるんですが、発信の仕方が弱いと思うんです。入籍時に窓口で、これだけのことありますよってというようなものを出しているのか、住宅リノベーション事業は、自分が探さないとダメなのか、本人に向けてダイレクトに伝わるのが大切で若い方にきちんと伝わっているのかどうか、どのくらいの人に周知徹底されているのでしょうか。

(事務局 行田課長)

皆さんおっしゃられる通りで、やはり情報発信の部分がまだまだ弱いという自覚はございます。新婚さんバックアップ事業については、ご案内を窓口でさせていただきます。また、例えば、移住される方で真庭市を全く知らない方向けの情報を一覧にしたパンフレットがあり、窓口での手続きに活用しています。引き続きターゲットを絞って、技術的なことも工夫しながら、プッシュ型で情報が渡るようデジタルの仕組みも作っていきたいと思っています。

(苦田委員)

14ページの経済的支援の7番に保育料の減免・無償化、第3子以降がありますが、第3子ってなかなか難しいです。第3子だけ無償じゃなくても、

保育料をちょっと安くしてあげるとか、第1子、2子と第3子ってどう違うのかなと私はいつも思うんです。3人子どもがいるから、4人子どもがいるから、経済的負担は大きいけれども、やっぱり2児も大事なので、予算つけられたらいいじゃないですか。本当に増やそうという意思があるかどうか、いろいろな意見を出さないといいことにならないと思います。

(小畑委員)

十分その思いは全員に伝わっておりますし、多分そういうことも含めて今後検討課題になっていくであろうと思っておりますし、そうしていかなければならないという風にも思います。ただ、一方でこれは国連が言っていますが、少子化という世界的な流れの中で、財政の支出を増やせば結果が出たかという、それに成功した国は世界中どこにもないというようなデータが出ています。日本も国を挙げて子育て支援ということで、経済支援をしていますが、そのやり方を変えるべきだという提言も国連からされています。会長としての意見ですが、この予算をいつまで確保できるのかという問題もあると思います。これが永遠に続けられる訳はないと思うんですよね。今回、集中的に予算を投入されていると思うんですが、毎年、その効果を精査し、ポイントを絞って予算化していく必要はもちろんあるかと思います。ですから、予算をつければ子どもが増えるという、必ずしもその相関関係にはないということも含めて進めていかなければいけないのではないかと考えております。予算は大事ですが、ただ、それだけではないので、今日ここにお集まりいただいた皆様に、こんな制度があるんだということを地域で広めていただくことこそ1番大事なPRに繋がっていくのではないかと考えていますので、是非、委員皆様のご協力をよろしくお願いしたいと思います。

(庄司委員)

15ページの5番の民間認定こども園サロン支援事業の充実というのはどういうことをされるのか教えてください。

(事務局 広岡専門官)

こちらの方は、新しく4月に開園する星のこども園の一部分で認定を受けて、一時預かりをされるということを聞いております。制度上、国の補助金等も活用しながら補助金を市から支出する事業です。1つでも受け皿が増えることはいいことと思っております、予算を確保しております。

(庄司委員)

サロン事業支援というのと一時預かり等の充実っていうのは、何か関係があるかなと思ひまして。

(事務局 広岡専門官)

預かり保育事業とは別に一部分の部屋を使ってサロン事業をされると聞いております。予算は事業で認められる補助金で運営費です。

(小畑会長)

では、次の報告に移りたいと思います。2のこども家庭センターについて、説明をよろしくお願いいたします。

(2) こども家庭センターについて

～(事務局 広岡専門官) 資料説明【資料3】～

(小畑会長)

利用者が利用しやすくなればということだと思わんですが、今いろんなジェンダーの要望等々で敏感になっていますので、母子保健っていう用語は変えた方が私も良さそうだと思いますし、また、父子家庭の方もいらっしゃいますので。あと、同性同士の子どもさんっていうのも今後増えてくるかと思わしますので、その辺りも含めて包括的に検討していかれるとは思いますが、このことに関してはいかがでしょうか。

(事務局 行田課長)

子育て支援課の課内室として、こども家庭センターというような位置付けをさせていただきます。

(庄司委員)

うちは、はぐくみサポーターのコーディネートをしているんですけど、利用できるのが1歳までですよね。1歳になったら切れてしまうっていうので、もう少し長いスパンで、せめて1歳6か月まで使えるようにできないかということ、前から健康推進課の職員さんたちと話をしていて、なかなか難しいと言われるんですけど、これから先で検討していただけたらと思います。

(事務局 広岡専門官)

12月から1月にかけて市内の子育て支援拠点を全部回らせていただきまして、お母さん方からいろんな意見を頂戴しました。担当課ともサポーターの件で6年度はもう少し議論を深めたいと相談しておりますので、できるだけそういったことも検討していきたいと思っております。

(事務局 行田課長)

23ページのイメージ図で、行政の仕組みの変わる部分をお示ししていますが、たくさんの支援機関に携わっていただかないと、様々な事情を抱えていらっしゃる皆さん方に携わっていくというのは本当に難しいことだと思っています。そういった中で役割分担をしながら、皆さん方のご協力があってこそ対応できることだと思っています。その上で、やはり虐待とか困難事例になっていく前の段階で予防できることを一生懸命力を入れていきたいと思っています。

(小畑会長)

要保護児童対策地域協議会の谷口さん、いかがですか。

(谷口委員)

この組織ができれば、いろんな困りごとがあった時に、どこの窓口で相談に行っても引き継いでくださるような組織になるのか。DVとかにならないうちに相談できるような人はそこまでにはならないんですね。そうなる前に相談できる仲間や行政や警察とか、社協みたいなところに相談に行ければ。

また、なかなか難しいところですが、登校拒否とかになる前に誰々ちゃんにこんなこと言われたみたい、子ども同士が打ち明けた話が早期に聞かれるような、学校や放課後児童クラブのところで、子どもの悩みが察知できることが大事なのかなと思います。

(小畑会長)

ワンストップの対応が今非常に求められていますので、センターがきちんと機能していくといいなと思います。その他、こども家庭センターについてはいかがですか。

(池田委員)

各振興局も窓口として、全てが対応できるということでしょうか。

(事務局 行田課長)

組織としては、このこども家庭センターという構えをするのは本庁だけになります。資料にありますように窓口としては振興局の保健師も共有を常にしますので、地域ごとの課題というのは振興局にご相談いただいても、しっかりとした対応や必要な支援機関に繋いでいきます。

(額田委員)

法律に基づくものなので全国的に準備はされていますが、令和6年4月か

らこどもセンターが立ち上るのは、美作管内では真庭市のみと聞いているので、いち早く取り組んでいただき感謝しますし、母子保健拠点と児童福祉拠点の一体的な実効性のある取り組みを期待しています。

(3) 真庭市幼児教育・保育施設マネジメント基本方針について

(小畑委員)

次の報告に移りたいと思います。3の真庭市幼児教育保育施設マネジメント基本方針について説明をよろしくお願いいたします。

～(事務局 広岡専門官) 資料説明【資料4】～

(小畑会長)

今後の推移を見て、今後多分さらに比較検討していかないといけないと思います。かなり膨大な資料で、事前に目を通してはいただいているかと思いますが、今日はとりあえず現状の報告ということでよろしいですか。

(樋口委員)

今まで真庭市内の園については、建築年数の部分だけで議論してきたと思います。今回、こういう少し客観的なものも含めてまとめた上で、今後、園の整備について検討するための材料としてまとめていることをご承知いただきたいと思います。

(川崎委員)

今子どもたちが生活している施設がどのような状態かということをお皆さんに分かっていただくという部分では、とてもわかりやすいと思います。今年度業者に確認いただいたことにより、目に見えない部分で老朽化が進んでいることもありますので、子どもにとっても保護者にとっても職員にとっても安全という部分で判断材料になるのではないかなと思います。また、現状報告だけではなく、整備していただけるようによろしくお願いいたします。

(小畑会長)

今後の検討課題ということで、データだけではなく、保護者の方や現場の先生の声も吸い上げつつ、それも踏まえて今後の材料にしていきたいと思います。

(4) 放課後児童クラブの状況について

(小畑会長)

それでは、放課後指導クラブに関して説明をお願いします。

～(事務局 硯課長補佐) 資料説明【資料5】～

(額田委員)

県庁からの報告では、人が集まらないとか、利用の申し込みの断りもされているなど、厳しい状況が伝わってくるんですが、このあたりに関してはいかがでしょう。

(池田委員)

うちの長男が、高学年の利用をお断りするに当てはまりました。4年生で対象でなくなり、1年生の息子がまた入るとい感じです。資料の現場からの報告にある通りで、支援員さんも3、4年ずっと変わってないということがありますし、スタッフは現場を終わられた方、高齢の方が多いので、小学生と遊ぶのもすごく大変そうです。利用料値上が昨年ありました。最初はやっぱり利用料金が上がるのはなぜかと思いましたが、致し方ないのかなと思っています。市の方で少し支援していただけたらと思います。

(事務局 行田課長)

ほとんどが保護者が担っている運営主体に対して、市が委託料を支払い、その中で支援員の賃金なども管理していただいています。運営の中で、利用料を上げるということもクラブでご判断いただいています。市も委託料について、国の補助金を活用したり、加算を付けられるようにしたり、できるだけクラブが運営しやすいような働きかけを一緒になってさせていただいています。また、全クラブに呼びかけ連絡会を開き、現場の声を聞くこともしています。希望される方が全員入れるような仕組み、それから受け皿というのがもっと必要で課題だと思っておりますので、できるだけクラブが充実するように、引き続き努めていきたいと思っております。

(5) 地域子育て支援拠点事業の状況について

(小畑会長)

最後、5の地域子育て支援拠点事業の状況について説明をお願いします。

～(事務局 硯課長補佐) 資料説明【資料6、7】～

(小畑会長)

いい取り組みだとは思いますが、女性が集まって話すっていうところに終わらないようにするのが大事なんじゃないかなと個人的には思うんですが、いかがでしょうか。

(庄司委員)

昔はそうでした。でも、今はお父さんが頑張って子育てされています。うちも土曜日、月2回開催しているんですが、朝から子どもさんとお父さんでの参加がすごく増えましたし、私たちも応援したいと思います。いろんな行事とかイベントをお父さん同士で話ができる場があればと思うので、そういうイベントを考えたりしています。

(小畑委員)

男性もだいぶ変わってきたとは思いますが、課題の子育てが孤立しているというのは、要は母親たちが孤立しているということだと思うんです。自分の研究や調査から言うと、友達との繋がりもいいですが、最も繋がりたい相手はパートナーだと思うんです。でも、話しても、いくら言っても理解してくれない、行き場のない思いを女性たち同士で慰め合うという、この構図はずっと今もなお続いていて、子育てしている男性の多くが若干独りよがりなところが、今なおあると思います。これは男性が悪いとかいうことではなくて、やっぱり夫婦の意識がまだまだってところがあると思うので、こういう取り組みはいいとは思いますが、ただ集まるってところで終わらせないっていうのが大事かなと思います。

(二若委員)

支援を改めて見てびっくりしたんです。プロジェクトの中に、新規の事業も増えているじゃないですか。今子育てされている方に発信しないと、本当に知らない人がいらっしゃると思うんです。本当に行政の人って大変だなとすごい感じたので、もっと発信をしてほしいと思いました。

(小畑会長)

真庭市に負けないように岡山市も進めてほしいと思うぐらい本当に頑張ってもらっちゃると思います。やっぱり口コミが一番大事ですので、世代を問わず、ここにいる皆さんにもいろいろ広げていただけたらありがたいと思います。

(苦田委員)

もっと結婚推進の皆さんに協力してあげたらいいんじゃないですか。結婚

推進委員の方がおられるんですね。そこを積極的にしないと真庭の人口は増えないと思います。それをお願いしたいと思います。

(小畑会長)

大学でもデートの誘い方の講座とか、キャリアプランに関する授業をやっていますが、早くから学校教育の中でそれ取り入れることは海外でも始まっているそうです。学生に聞いても、非常に結婚にネガティブでメリットがないとはっきり言います。そういうところも含めて、早くからの教育ですかね。幅広く対策して進めていかなくてはいけないかなという風に思います。

(苦田委員)

地元の魅力がないと若い人は残りません。魅力をいかに発信して若い人に戻っていただくか。仕事もそうですし、若い人はお祭りが好きなので、大学に行っても、東京や大阪で仕事の人もそこに合わせて5日とか1週間とか戻るぐらいなんです。

(小畑会長)

お金はどこもないと思うんですけど、最後やっぱり人で、優しい人たちがたくさんいる、人の良さで売っていくというのも大事なのではないのでしょうか。専門が心理学なものですから、お金より人の優しさで売っていけたらいいんじゃないかと聞いていて思いました。

6 閉 会

(杉本副会長)

皆さん、今日は年度末でお忙しいところ、多数出席をしていただきましてありがとうございます。子どもさんは本当に宝です。今日はたくさん皆さんのご意見を伺いました。なるほどなと思いながら私も聞いておりました。整備を十分にしていかないと次のステップにいけませんので、そのための今日皆さんのご意見は大切だと思いますし、次回も多くの意見を聞かせていただきた、本当に子どもさんを大事に議論できたらと思います。本日はありがとうございました。